

科目名	異文化コミュニケーション I				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	春学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2年次
教員名	田畑 恒平, 堀川 諭	単位数	2単位		

#### 授業概要／Course outline

グローバル時代における異文化への理解，関心を深めると共に，それらの背景にある多様性や現状，課題などを複眼的に捉え，海外から発信される情報（論文，新聞，雑誌，書籍，テレビ番組，インターネットサイトなど）を題材にして，これらを読み解いていく。また，これらの題材を通じて英語教育に必要な読解力，表現力，発信力を養う。

#### 授業形態，授業方法等／Course form・type

##### 【授業形態】

対面授業

##### 【授業方法】

講義

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション，ディベート／グループワーク）  
グループディスカッションやワークを適宜取り入れます
- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））  
オンデマンドコンテンツをアップします
- ・実務経験のある教員による授業  
この授業はマスメディアでの実務経験がある教員2名が担当します

#### 授業内容・授業計画／Course description・plan

授業内容・計画は以下の通りである。

##### 第1回 異文化コミュニケーションの視座（担当：田畑恒平）

この講義の全体像を解説した上で、「異文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」に関する概説を行う。

##### 第2回 グローバル社会と異文化交流とグローバリゼーションの意味（担当：堀川諭）

グローバリゼーションや異文化交流の定義を確認した上で，身近な事例を学ぶ。

##### 第3回 異文化交流の歴史（担当：田畑恒平）

異文化交流の歴史的な変遷を明らかにし，自文化・異文化における文化表象の歴史認識について解説する。

##### 第4回 文化とコミュニケーション（担当：田畑恒平）

「文化」とは何かを概説した上で，文化とコミュニケーションの関係についてワークショップを行う。

##### 第5回 文化志向VSコミュニケーション志向（担当：田畑恒平）

異文化と向き合うときに，ある一定のアセスメントを基にした理解や双方向性を重視した理解など様々な志向性が存在することを解説する。

##### 第6回 文化と権力（担当：堀川諭）

米国文化が力を持ってきた経緯を振り返り，日本企業の風土にも変化をもたらしていることを解説する。

##### 第7回 コミュニケーションを学ぶ意義（担当：田畑恒平）

「コミュニケーション」の捉え方及びなぜ「コミュニケーション」を学問として学ぶのかを解説する。

##### 第8回 コミュニケーション能力とは（担当：田畑恒平）

「コミュニケーション」はスキルである。したがって，学ぶことによって獲得可能な能力であることをワークショップを基に体験する。

##### 第9回 異文化コミュニケーション能力（担当：田畑恒平）

「異文化コミュニケーション」に必要な能力とは何かについて解説する。

##### 第10回 言葉と権力，言葉の権力（担当：堀川諭）

言語帝国主義の意味と事例を学び，外交の世界にも及ぼしてきた影響を解説する。

第11回 言葉とグローバリゼーション（担当：堀川諭）

グローバル化に伴って英語の重要性にどのような変化が生じてきているかを学ぶ。

第12回 言葉の力とイデオグラフ（担当：堀川諭）

イデオグラフとは何かを解説し、政治家の演説にどのような具体例が見られるかを学ぶ。

第13回 国際英語・世界諸英語・英語主義（担当：堀川諭）

英語話者が増える中、「正しい英語」をめぐる考え方は変化している。母語の異なる人々のさまざまな英語表現を示しながら、現状を明らかにする。

第14回 国家と標準語（担当：田畑恒平）

近代国家成立させる上で重要な『国語』について、標準語制定意義と国家成立の観点から解説する

★オンデマンド回 コミュニケーションの実践について（担当：田畑恒平）

コミュニケーションの実践について、映像教材を用いて解説する

- ・ 「教員-学生間の対話」：第4～6週のいずれかで実施
- ・ 「学習成果実感調査」：第14週に実施

事前・事後学修／Preparation and assignments

以下の通りの事前学習、事後学習を行って授業に臨むこと

第1回 異文化コミュニケーションの視座（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 授業内容を踏まえた上で、事前学習の

第2回 グローバル社会と異文化交流とグローバリゼーションの意味（担当：堀川諭）

- 【事前学習】 当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第3回 異文化交流の歴史（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第4回 文化とコミュニケーション（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、文化について自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 ワークショップの結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第5回 文化志向VSコミュニケーション志向（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、異文化と向かい合う志向性について自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 自分はどの志向性が異文化理解にふさわしいと考えるかまとめておく。

第6回 文化と権力（担当：堀川諭）

- 【事前学習】 当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第7回 コミュニケーションを学ぶ意義（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、コミュニケーションについて自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 授業を踏まえて、自分なりのコミュニケーションを学ぶ意義を検討する

第8回 コミュニケーション能力とは（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、コミュニケーション能力について自分の考えを発表できるようまとめる。
- 【事後学習】 ワークショップの結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第9回 異文化コミュニケーション能力（担当：田畑恒平）

- 【事前学習】 moodleにアップする資料を通読の上、異文化コミュニケーション能力について自分の考えを発表でき

るようまとめる。

【事後学習】授業を踏まえて、自分に必要な異文化コミュニケーション能力について検討する

第10回 言葉と権力、言葉の権力（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第11回 言葉とグローバリゼーション（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第12回 言葉の力とイデオグラフ（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第13回 国際英語・世界諸英語・英語主義（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第14回 国家と標準語（担当：田畑恒平）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

オンデマンド回 コミュニケーションの実践について（担当：田畑恒平）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

#### 授業の到達目標/Expected outcome

- ・社会や世界との関わりの中で、他者との適切なコミュニケーションを行えるようになる。
- ・外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を学び、広範な視野と多様な価値観を受け入れられるようになること。
- ・英語が使われている国、地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、意思疎通できるようになること。

#### 身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・思考力 専門知識・専門技能
- ・倫理性 【外国語学部 ヨーロッパ言語学科】
  - ・異文化理解
  - ・言語的技能

#### 履修上の注意/Special notes, cautions

- ・質問は積極的にすること。
- ・出席回数が全講義の2/3以上ない場合は、成績評価しない。

#### 評価方法/Evaluation

受講状況（50%）、習熟度確認の中間レポート（20%）、まとめの試験（30%）  
上記結果を総合し判断する。  
小テストの結果については各教員が自身の授業回でコメント・フィードバックを行う。

#### 教材/Text and materials

授業で使うテキストは随時配布する。

参考書

池田理知子 編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房

#### 質問や相談の方法/Instructor contact

この授業は2人の教員によるオムニバス型講義である。  
授業に関する質問や相談などがある場合はオフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーは以下の通り。

**【堀川】**

木曜2限 第2研究室棟 第529研究室

(※詳細はオフィスアワーの掲示を確認)

質問や相談はオフィスアワーに限らず、いつでも受け付けます。積極的に声をかけてください。

**【田畑】**

月曜2限 (10:45~12:15) @S211スタジオ

上記以外の場合は連絡先: [ksu.tahata@gmail.com](mailto:ksu.tahata@gmail.com)までメールの上アポイントメントをとること。